



れふアレンス通信

No. 23

2015.2
石川県立図書館
利用サービスグループ
〒920-0964
金沢市本多町 3-2-15

金沢の町名について調べる

金沢には昔からの町名が多く残っており、また由緒ある町の名前を復活させようという運動も行われています。そんな金沢の町名について調べるための資料をご紹介します。

「柿木^{なまのまぼけ}畠」の由来を刻んだ「まちしるべ」。

町名や地名を文化遺産として継承するため、金沢市の事業で設置されたものです。町名その他、坂や堀、用水などについて伝える標柱が昭和54年～平成22年にかけて金沢市内の224ヶ所に設置されました。

設置された当時、この場所は「^{ひろさか}広坂1丁目」でしたが、平成15年10月に町名が復活したため「旧」の文字が埋められています。

(参考文献：『金沢市歴史のまちしるべ案内』
(裏面掲載の〈町名に関する主な資料〉④)
(以下、資料④などと略記))



こんなことを調べています～事例紹介

Q 「中安藤^{なかあんどうまち}町」について調べている。現在のどのあたりか。詳しい住所も調べられるか。

A 次のような資料があります。

- ・『角川日本地名大辞典 17』(資料⑦)によると、鉄砲組頭・安藤長左衛門の組地があったことから藩政時代に安藤町、また俗にアンドン町と呼ばれていたのが、明治のはじめ頃に上中下の3町に分かれて中安藤町になったようです。
- ・『旧町名復活の推進について』(資料⑤)に掲載されている「旧町名～現在の町名一覧」を見ると、昭和39年4月に「住居表示」が実施されて町名が変更になり、現在は「^{いしびき}石引1丁目」で、^{こだつの}小立野校下(学区)であることがわかります。
- ・『住居表示整備区域旧新住居表示対照表』(資料⑨)の昭和38年度分を使えば住居番号まで調べることができます。
- ・『金沢市住宅明細地図』(資料⑩)など、古い住宅地図も役に立つでしょう。

〈金沢の町名の変遷について〉

金沢市では昭和37年～49年にかけて順次「住居表示」が実施され、町の名前が大きく変わりました。たくさんの小さな町をなるべく大きな町にまとめて街区番号・住居番号をつけるようにしたため、なくなった町名が数多くあります。この「住居表示」実施以前の町の名前がいわゆる「旧町名」です。旧町名を復活させる動きもあり、平成11年の「^{かづえまち}主計町」を嚆矢としていくつかの旧町名が復活しています。(参考文献：資料⑤)

〈町名に関する主な資料〉

- ①『**金沢・町物語**』(能登印刷出版部・1982.11 K222/62) 町名の由来や町に関するエピソードをまとめた本。町名だけでなく町についていろいろ知ることができる。平成25年の復刻新版(能登印刷出版部・2013.11 K222/1050)では「異説詳説」と題するコラムが追加されている。
- ②『**金沢百年町名を辿る**』(能登印刷出版部・1990 K222/104) 資料①より新しい時代のエピソードが中心。巻末の資料編に新旧町名対照表、旧町名の由来表がある。
- ③『**金沢の民話と伝説**』(金沢兼六ライオンズクラブ 1984.10 K388/38) P145～183に「金沢の町名のおこり」が書かれている。よみがな付で文章もわかりやすい。
- ④『**金沢市歴史のまちしるべ案内**』([5訂版] 金沢市・2013.11 K292.2/1156) 市内各地に設置された「歴史のまちしるべ」の刻文をまとめた冊子。
- ⑤『**旧町名復活の推進について**』(金沢市市民局市民協働推進課・2009.11 K318.2/1003) 金沢市の事業の報告書。「旧町名～現在の町名一覧」に旧町名の読みかたや由来、現在の町名、校下(学区)名、住居表示の実施された日付などが載っている。町名が変わっていない町は出てこない点に注意を要する。
- ⑥『**石川県の地名**』(平凡社・1991.9 K290.3/309) 地名辞典。古い地名から引くと平成3年時点の町名も記載。それぞれの記述の出典が書かれているので、さらに本格的な文献に当たる際の手がかりとしても使える。巻末の付録も役に立つので確認しておくといよい。
- ⑦『**角川日本地名大辞典 17**』(角川書店・1981.7 K290.3/228) 地名辞典。地名編は行政区分の変遷について詳しい。地誌編には昭和56年時点での世帯数・人口やそれぞれの町の概説がある。
- ⑧『**かなざわ復刻地図**』(刊広社・[2006] K290.3/1063) 昭和29(1954)年と平成18(2006)年の金沢の地図、そして旧町名から現在の町名を調べることのできる索引のセット。「住居表示」実施前後の町名を地図で見比べるのに便利。
- ⑨『**住居表示整備区域旧新住居表示対照表 昭和37～49年度**』(金沢市・1963.12～1975.3 K318.8/3/62～74) 「住居表示」の実施で町の名前がどう変わるのかを示したその当時の資料で、「～丁目～番～の～」まで突き合わせることができる。実施年度ごとにまとめられているので、資料⑤とあわせて使うと良い。また、年度によっては新旧の町名をわかりやすく示した色刷の地図が付録としてついている。
- ⑩『**金沢市住宅明細地図**』(日本地図編集社・1956 K290.3/住22/56) 石川県立図書館所蔵の(現在の形の)住宅地図で、もっとも古いもの。「住居表示」実施前なので旧町名で記載されている。
- ⑪『**金沢町絵図**』(金沢市立玉川図書館・1998.3 K209.5/86/2) 『**金沢町名帳**』(金沢市立玉川図書館・1998.3 K209.5/86/1) 町絵図は藩政時代(1811年)の各町の通りや一軒一軒に住んでいた人の名が書かれた詳細な絵図。いわば藩政時代の住宅地図。名帳は町内の名簿のようなもので、住んでいた人の職業や名前がわかる。

その他、町会や校下などの歴史をまとめた資料が刊行されていることがあります。館内の蔵書検索端末を使って町名や校下の名前を検索してみるとよいでしょう。また、現在は金沢市だが過去には別の町村だったことがあり、そちらの町村史に地域のことが詳しく書かれている、ということもあります。資料⑥の巻末資料や資料⑦などで確認してみましょう。

資料や検索端末の使い方を知りたいとき、もっと本格的な資料も調べてみたいというときは、お気軽に調査相談カウンターまでお尋ねください。

調べものは調査相談カウンターまで

電話：076-223-9575 F A X：076-222-2531 メール：chosa@pref.ishikawa.lg.jp